

MOVIN'

高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

ISSN 0918-7111

高岡発
高岡金屋町 千本格子のある鋳物発祥の地
未来へ残す町のデザイン
特集
21世紀モノづくりの存続を目指して
サステナブルデザインフェスタ

2003 vol. 12



高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

VOL.12 2003年3月31日発行

発行

高岡市デザイン・工芸センター

〒939-1119 高岡市オフィスパーク5番地
Tel 0766-62-0520 Fax 0766-62-0521
<http://www.suncenter.co.jp/takaoka/>
E-mail td5@suncenter.co.jp

企画・編集・印刷

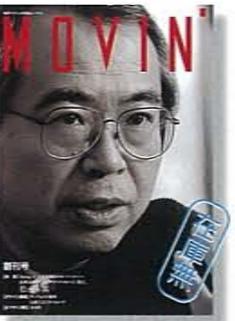
相互企画印刷株式会社

12 100 本誌は古紙100%の再生紙を
使用しています。

MOVIN' バックナンバープレゼント

ご希望のナンバーがございましたら下記までお申し込みください。各号、先着100名様に無料で差しあげます。なお、送料はご負担いただきます。

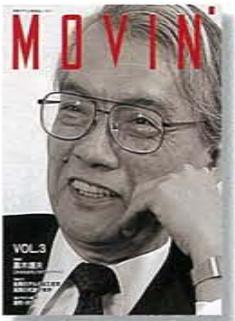
■官製ハガキにてお申し込みください…裏面に、ご住所・氏名・職業・勤務先名を明記のうえ①希望のナンバー(複数号可能)②興味のあった記事③本誌に対するご意見をお書きください。先着100名様に無料差呈いたします。なお、送料は本人負担(宅配便にて着払い)となります。また、各号お一人一冊とさせていただきます(1号・2号は在庫がありませんのでご了承ください)。※締切/平成15年8月31日消印有効



vol.1
特集／松永 真「高岡イメージボスターを作成して」WAY/伝統工芸と
コンピュータ 街・デザイン探訪／金屋町



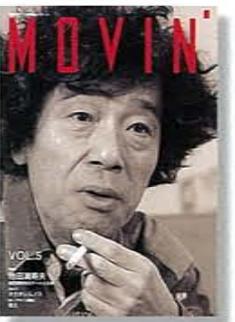
vol.2
特集／黒川雅之「モノづくりの世界」
WAY/NEWS-クリアグループ 街
・デザイン探訪／山町の土蔵造り



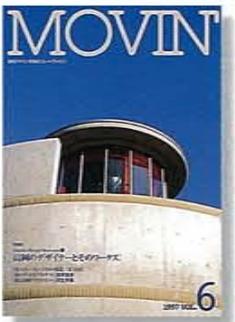
vol.3
特集／黒木慎夫「これからのモノ
づくりとデザイン」WAY/アルミ加
工産業・和菓子業界 街・デザイン
探訪／港町「伏木」



vol.4
特集／平野拓夫「これからのデザ
イン環境」WAY/高岡の梵鐘 街
・デザイン探訪／八丁道



vol.5
特集／池田満寿夫「アートと日本」
WAY/タカラレムノス 街・デザイン
探訪／吉久



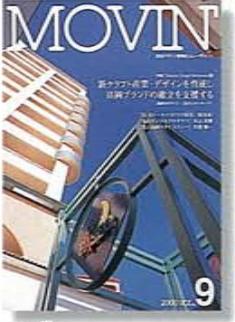
vol.6
特集／高岡のデザイナーとそのワー
クス モノづくりの情景／影金師
私のグッドなプロダクト／荻野克彦
私と高岡クラフトコンペ／羽生野亜



vol.7
特集／高岡とクラフト モノづくりの
情景／塗部 私のグッドなプロダク
ト／森山明子 私と高岡クラフトコ
ンペ／金子 遼



vol.8
特集／デザイン教育と地域産業
モノづくりの情景／原型部 私のグ
ッドなプロダクト／杉本貴志 私と
高岡クラフトコンペ／下尾和彦



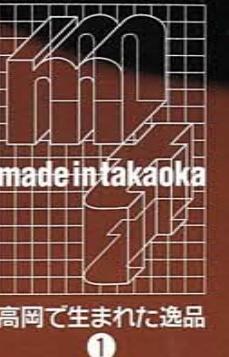
vol.9
特集／高岡市デザイン・工芸センタ
ー モノづくりの情景／薪金家 私
のグッドなプロダクト／川上元美
私と高岡クラフトコンペ／町田俊一



vol.10
特集／北陸4県の「素材と技術展」
モノづくりの情景／指物木地師
私のグッドなプロダクト／松永 真
私と高岡クラフトコンペ／太田和人



vol.11
特集／高岡発ユニバーサルデザイン
YOUNG MEISTER／木型師 審査
員が買ったクラフト／芦原太郎 私
と未来へ残す町のデザイン／高岡山筋



高岡で生まれた逸品
①

背景の写真は銅合金素材のオリジナル手洗器。シルバーが上質な雰囲気を奏でています。トライアングルは建築家の芦原太郎さんで、高岡銅器の技術を駆使して生まれたものだ。高岡銅器では近年、現代の生活空間を意識したオリジナルエアなども開発してきたが、建築業界だけに狙いを定めた、ユニークなオーダーメード製品へのプロモーションをはじめた。

建築業界へアプローチする 高岡銅器のオーダーメード製品。

高岡銅器団地協同組合では、平成14年10月に東京ビックサイトで開催された「イペック」の国際展示会「IPEC21」に初出展した。従来のように完成品の展示ではなく、銅合金の可能性や高岡の技術をプレゼンテーションへこもつておる試みで、対象を建築業界に絞り、例えば水まわり製品やマッハフル建築金具(全般)など、圓鏡やスケッチがあれば一個でも製品化するオーダーメードシステムを提案。展示ブース(写真⑥)には着色や仕上げの異なる56種類の立方体の銅合金素材を並べ、サンプルのアピールヒートデザイナーリに次ぐるイメージーションを刺激するディスプレーとしている。この「ハセフト」から生まれたのが先の手洗器(写真⑦)だ。アサインは工業都市高岡クラフトコンベの審査員で建築家の芦原太郎さんが務め、今後のオーダーメード製品においてもトライアングル協力を得る。会期中は建築家やトライアングルの来場者が訪れ、多くの質問が寄せられた。展示会終了後もオーダーメード

についての問い合わせが多く、今後にかける期待は大きい。また、組合では先に製品化を進めた洗面器(写真③④)も出展。この製品は高岡市の公共施設などで設置されているが、大手メーカーからの発売(今春予定)が決定している。今後も引き続き芦原さんのトライアングル協力で、建具や照明器具などハイナンップを充実してブランド化を図りながら、高岡の技術力を全国に発信していく。

MOVIN'

高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

CONTENTS 2003 vol.12

MADE IN TAKAOKA ①

高岡銅器のオーダーメード製品

KEY PERSONS

教育現場からの「デザインムーブメント」

サステナブル「デザインフェスタ」

産学交流から広がる新しい可能性。

YOUNG MEISTER

模型で小物をつくる

CHOICE2002

審査員が選んだクラフト

ムーヴィン通販俱楽部

未来へ残す町の「デザイン」

高岡金屋町

千本格子のある鉄物発祥の地

DESIGN NEWS FILE ②

MADE IN TAKAOKA ②

平成15年度工芸体験実習開催予定

技術・技法継承者育成事業／技術者養成スクール

高岡発「素材と技術」レポート

MADE IN TAKAOKA ③

バックナバーバンヤヘルの知らせ

MADE IN TAKAOKA ④

表紙／千本格子通りに金屋町通り(金森謹平家)

(写真提供・取材協力)

東砂代子

石川栄美子

銅器工房 利川館

N.E. 富山の古窯

大森孝也

金森謹平

金森謹平商事株式会社

株式会社金森ムーブメント

京田政香

株式会社銀次堂

星田卯和

国立高岡伝統大学

SA-KU

佐野和也

下屋やねひ

飯保昭一

杉林幸輔

鶴谷本店

高岡市商工労働部観光物産課

高岡市商工労働部工業分科課

高岡市商工労働部中小企業課

高岡市商工労働部建設指導課

高岡市都市整備部都市計画課

高岡市文化振興課

高岡商工会議所

高岡青年会

高岡市職業訓練青年会

高岡銅器団地協同組合

高岡市商工労働部中小企業課

SUSTAIN DESIGN



高岡発—21世紀モノづくりの存続を目指して

サステナブルデザインフェスタ ~人と環境にやさしいデザイン展~

20世紀の発展を支えた大量生産・大量消費・大量廃棄という経済システムの見直しが迫られ、環境に関連した法整備や技術開発が急ピッチで進んでいる。環境負荷を軽減する循環型社会への転換が期待される一方で、モノづくりに関わる企業やデザイナーにとっては生き残りを左右する問題も発生しかねない状況だ。



高岡市デザイン・工艺センターでは、こうした動きに合わせて「サステナブルデザインフェスタ」(平成14年10月1日～20日)を開催。地球環境に配慮した製品の展示をはじめ、フォーラムやワークショップを通じてサステナブルデザインの啓蒙と普及が図られた。

「サステナブルデザイン」(以下SD)といつても、「存じの方は少ないだろう。事実、今回のサステナブルデザインフェスタの来場者アンケートでも、8割以上がその言葉を初めて聞いたと回答している(※問1参照)。サステナブルを直訳すると「持続可能な」という意味になり、最近ボビュラーな言葉となつて使われることもある。SDの定義はまだいい換えることもある。

「循環型社会」を「サステナブル社会」といふといえよう。モノづくりにおいては、資源やエネルギーの効率化を図ったり、製品の長寿化やリサイクルによって廃棄物の削減に幅に見直し、生活水準の向上と環境負荷の少ない社会を同時に実現するための「デザイン」といふこともある。

「持続的」ということが共通の基本キーワードといつていい。要するに、地球の資源を消費することで、発展してきた近代文明を大いに使われることも多いが、資源と生活



持続ではなく文明の持続を意味しています。

人間が多少の環境破壊をしても、地球の存続にほとんど影響しない。むしろ、存続の危機にあるのは人間の方なんです。現在、世界の人口は60億人を超え、全人口の約2割

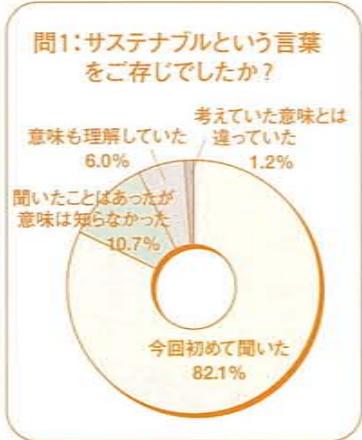
でしかない先進国が全資源・エネルギー消費量の約8割を独占しています。今世纪半ばには、100億人に達するでしょう。このままでは、資源・エネルギー消費量の不均衡がますます拡大し、やがて破綻してしまいます。だから、先進国と開発途上国の格差をなくした上で、世界の平均生活水準を

2倍に高めながら、環境負荷を半分にしよう」という「ファクター4」が提唱されました。つまり、資源の利用効率を4倍に引き上げようというものです。サステナブル社会の最低基準となっています。これをさらに進めて長期的には「ファクター20」の実現も不可能じゃないでしよう。先進国一人当たりの環境負荷を40年間で20分の1に削減するという目標です。一見、無謀にも思えますが、ここ10年間でさまざまな省エネ製品や省資源の技術が生まれ、技術的側面でいうとかなりの次元まで来ました。たとえば、車両を軽量

注1:「循環型社会基本法」

'00年6月、環境省より施行。この法律を基本的枠組として、個別のリサイクル法が次々に制定・改正された。

- 【グリーン購入法】
- 【食品リサイクル法】
- 【建設リサイクル法】
- 【家電リサイクル法】
- 【容器包装リサイクル法】
- 【資源有効利用促進法】
- 【廃棄物処理法】



社会全体の機運が高まっている。こうした背景もあり、同フェスタの企画・開催に至った。会場となった富山県産業高度化センターは、オランダのグッドデザイン商品をはじめ国内外の357点。展示ベースは「エコロジー」「省エネ」「資源循環」「ロングライフ」などのコーナーに区分され、リサイクル素材を使った日用品などさまざまなかなSD製品が紹介された。

ひとくちにSD製品といっても、そのアプリーチは多岐にわたる。企画・製造から使用後に至るすべてを視野に入れた、いわばモノの一生を「デザインすることともいえるからだ。もちろん、流通やパブリシティにおいても例外ではない。およそモノに関わるすべての人には、SDと対峙しなければ時代に取り

● フォーラム Part 1 「現場からの報告」
資源・エネルギー効率を20倍に高めた社会の実現

Part 1では、「現場からの報告」と題して講師それぞれの立場からスピーチしていく

だいた。コーディネーターを務めたのは、工芸デザインの国際的な活動体「OZ GLOBAL NETWORK」の設立当初からのメンバーで、

近年は特にエコロジカルなデザインをテーマに取り組んでいる益田文和氏(東京造形大学教授)。まずは、サステナブル社会を実現するための目標といえる「ファクター論」について、益田氏の「説明を以下の文章に要約する。

「持続可能な」という意味は、地球自体の社会全体の機運が高まっている。こうした背景もあり、同フェスタの企画・開催に至った。会場となった富山県産業高度化センターは、オランダのグッドデザイン商品をはじめ国内外の357点。展示ベースは「エコロジー」「省エネ」「資源循環」「ロングライフ」などのコーナーに区分され、リサイクル素材を使った日用品などさまざまなかなSD製品が紹介された。

ひとくちにSD製品といっても、そのアプリーチは多岐にわたる。企画・製造から使用後に至るすべてを視野に入れた、いわばモノの一生を「デザインすることともいえるからだ。もちろん、流通やパブリシティにおいても例外ではない。およそモノに関わるすべての人には、SDと対峙しなければ時代に取り

● フォーラム Part 1 「現場からの報告」
資源・エネルギー効率を20倍に高めた社会の実現

Part 1では、「現場からの報告」と題して講師それぞれの立場からスピーチしていく

だいた。コーディネーターを務めたのは、工芸デザインの国際的な活動体「OZ GLOBAL NETWORK」の設立当初からのメンバーで、

近年は特にエコロジカルなデザインをテーマに取り組んでいる益田文和氏(東京造形大学教授)。まずは、サステナブル社会を実現するための目標といえる「ファクター論」について、益田氏の「説明を以下の文章に要約する。

境問題に対する

〔※注1〕
「循環型社会基本法」
参考に
が
施行された
ことで、環



「循環型社会基本法」(以下「循環型社会基本法」)は、20世紀の発展を支えた大量生産・大量消費・大量廃棄という経済システムの見直しが迫られ、環境に関連した法整備や技術開発が急ピッチで進んでいる。環境負荷を軽減する循環型社会への転換が期待される一方で、モノづくりに関わる企業やデザイナーにとっては生き残りを左右する問題も発生しかねない状況だ。

高岡市デザイン・工艺センターでは、こうした動きに合わせて「サステナブルデザインフェスタ」(平成14年10月1日～20日)を開催。地球環境に配慮した製品の展示をはじめ、フォーラムやワークショップを通じてサステナブルデザインの啓蒙と普及が図られた。

21世紀のモノづくりにおいて無視できない新しい潮流

化することで、電車の走行に要する消費電力を半分以下に抑えたとか。ただ、燃費が倍以上上がったからといって、その分の距離を無駄に走るのでは意味がありません。作り方だけじゃなく、使い方も同時に考えるべきでしょ。それは、文化的側面といえますね。工

コデザインは技術的側面に重点を置いた考え方でしたが、両方をバランスよく解決するのがSDと考えていただければいいでしょう」

ファクター20は、SDに取り組むときの目標となるだろう。だが、具体的にどのような方法で実践していくべきか。そのサンプルとなる3つのシナリオ(※注2参照)が環境省から発表されているので紹介しよう。これは、日本における循環型社会のイメージを3つの選択肢として提示したもので、環境省では広く国民に問い合わせている。

商品はもともと地球の資源、使い終わったらゴミになる

続いてお話をされたのは、カタログハウスの竹本徳子さん。同社は、約120万人もの定期購読者から支持される通販カタログ「通販生活」を年4回発行。商品の材料は地球の資源であるという考え方から、環境に配慮した独自の商品憲法を設けている。「できるだけ『地球と生物に迷惑をかけない商品』を販売していく」をその第1条とし、取り扱ってはいけない商品など細かい基準を定めている。「環境対策は、企業信頼のためにあります。地球のためとか大それたことは思っていません。企業ですので、企業信頼のためないと、社員は本気で取り

組めないです」と語る竹本さんに、環境対策に取り組んだ経緯を説いていただいた。

「環境については、「91年に『通販生活』で『ゴミを減らす道具を特集しました。ただ当初は、やはり環境に留意すると商品が売れなくなってしまうのではないか、という危惧があつて一気に踏み込めませんでした。社告を出しながら、回収しようと、徐々に始めました。『環境を切り口にすること』でお客様の信頼が得られる」という社長の考えで、「97年に全面的に環境対策を打ち出しました。以来、全商品の環境チェックをしています。メーカーさんは、すべての基準をクリアしないと、当社の審査で落とされます。環境ホルモンとか次々に新しい問題が出てきますが、当社では疑わしい商品は売らないということを徹底しました。もしものことがあれば、お客様に申し訳ありませんし、当社の信頼がなくなりますから」

同社では、アフターフォローの取り組みにも力を入れていて、読者から寄せられた中古品を販売するショップ「温故知品」を開設している。これについて竹本さんは「商品はいずれ『ゴミ』になります。『ゴミを売っているんだから、回収しましょう』といつ発想ですね。だから、当社が売った商品で消耗品以外はショップで下取りしています。平成14年からは、当社で販売する消耗品を除く全商品について、3年間無料で修理を受けさせていただきます。これもお客様からの信頼が利益を生むというスタンスの一環です」としている。



注2: 循環型社会の3つのシナリオ

シナリオA【技術開発推進型】
ライフスタイルは今ままの水準を維持しながら、高い技術によって環境負荷を低減していくというシナリオ。積極的にリサイクルを推進して、その技術を生産・販売する産業が発展することで経済成長を達成する。

シナリオB【ライフスタイル変革型】

これまで環境に負荷を与えてきたライフスタイルから脱却した社会。大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムを見直して、シンプルライフを実践するシナリオ。経済成長率は下がるがマイナスではない。

シナリオC【環境産業発展型】

A・Bと違って経済そのものの構造を変えようというシナリオ。物質的な消費を伴わない経済活動を前提にしている。IT化の進展やレンタルなどモノを媒介としないビジネスを発展させ、新しいサービス産業の推進を図る。

デザイン領域や方法論を超えるSDの取り組み

デザイナーにとってSDとは、従来のデザイン領域や方法論にとらわれることなく、環境というフィルターを通して自由に発想する機会なのかもしれません。インダストリアル

デザイナーの大島礼治氏(オーシマ・デザイン設計)の取り組みから、SDの開拓の広さや奥行きの深さを実感することができるだろう。「色やカタチよりも、システムやビジネスを構築することに興味がある」という大島氏に、環境をテーマにした数々の活動から最近の事例をスライドで紹介していただいた。

その中のひとつ、新日鐵の廃プラスチック再資源化プロジェクトは、「02年度Gマーク金賞」を受賞したので、存じの方も多いだろう。これまで「ゴミ」として埋め立てられたり焼却されてきた廃プラスチックをコークス炉で分解し、バージン素材に100%リサイクルできる画期的な技術だ。プラスチックの成分は、価格や作り方を考える機会になるでしょ。これが社会に出ることで、ニーズを把握したり、ワークですね。僕の専攻は木工なので、ガラスの技術や設備は持っていないません。それでも、学生が社会に出ることで、ニーズを把握したり、価格や作り方を考える機会になるでしょ。そうすることで、またいろいろな分野の人にお会いの機会が生まれるんです。より多くの人とお会いのための教育を実践していく必要があると最近考えています」とデザイン教育に対する持論を披露された。

ここでPart1が終了し、休憩を挟んでPart2に移行。4名によるディスカッションから始まって、途中、来場者との質疑応答を交えながら進められた。引き続きその模様をお伝えする。

●フォーラムPart2 「環境と人との未来をデザインする」 SDには広い視野とコミュニケーションが欠かせない

とは一味違う活動を展開中だ(10頁参照)。小松氏は「大学も短大も、どんと構えて待つという体質があります。でも、外に出ないとニーズなんて見つかりません。それとネットワークですね。僕の専攻は木工なので、ガラスの技術や設備は持っていないません。なくても、あるところを知つていればいいんです。学生が社会に出ることで、またいろいろな分野の人にお会いの機会が生まれるんです。より多くの人とお会いのための教育を実践していく必要があると最近考えています」とデザイン教育に対する持論を披露された。

ここでPart1が終了し、休憩を挟んでPart2に移行。4名によるディスカッションから始まって、途中、来場者との質疑応答を交えながら進められた。引き続きその模様をお伝えする。

SDに関わって見えてきたのは、もはや既存のデザインジャンルという枠が意味を成さなくなつたということ。何とかデザインが専門だから、他の分野は知らないじや済まない。その辺りについて、教育現場からご覧になつていいがでしょ。

いくら作業が上手くても、教室にこもつていては社会が求めるモノなんてつくれません。もっと視野を広げる必要がある

益田 文和
東京造形大学教授
株式会社オープンハウス代表取締役
'82~'88年、INDUSTRIAL DESIGN誌(JIDA発行)編集長を務める。'91年、株式会社オープンハウス設立。
'92年~新潟県央地域地場産業振興センターコーディネーターを務める。
'97年、通商産業省グッドデザイン賞を受賞。'98年、EcoDesign'99実行委員、エコデザイン研究所設立。
'00年、東京造形大学デザイン学科教授に就任。

大島 礼治
株式会社オーシマ・デザイン設計代表取締役
'74年、株式会社東芝デザイン部入社。'85年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科専任講師を務める。
'89年、株式会社オーシマ・デザイン設計設立。'91年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科助教授に就任。
'95年、ソシオシステム研究機構代表幹事。'96年、Istituto Europeo di Design (MILANO)客員教授に就任。

竹本 徳子
株式会社カタログハウス取締役エコサービス室長
'76年、株式会社東京こども教育センター(カタログハウス前身)編集部入社。広告室媒体担当広告本部副本部長を務める。'82年、株式会社情報処理技術者教育センター設立(現アイティック常務取締役)。'91年、セント・キャサリンズ・カレッジ神戸インスチチュート(オックスフォード大学)European Study Diploma取得。'96~'98年、社団法人日本通信販売協会理事(出向)。'98年、株式会社カタログハウス取締役情報システム部長。'02年、同社エコサービス室設立。

小松 研治
国立高岡短期大学産業造形学科教授
'80年、高澤学園いどーば美術学院デザイン・工芸科非常勤講師を務める。'86年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻講師。'90年、スウェーデン・カペラゴーデン美術工芸学校及びスтокホルムカール・マルムス滕美術工芸学校へ研修員として留学。'93年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻助教授に就任。'01年、「爪研ぎヤスリ」「仏壇のプロトタイプ」等の連携制作を手掛ける。'03年、現職に就任。



大島 礼治
株式会社オーシマ・デザイン設計代表取締役
'74年、株式会社東芝デザイン部入社。'85年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科専任講師を務める。
'89年、株式会社オーシマ・デザイン設計設立。'91年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科助教授に就任。
'95年、ソシオシステム研究機構代表幹事。'96年、Istituto Europeo di Design (MILANO)客員教授に就任。

竹本 徳子
株式会社カタログハウス取締役エコサービス室長
'76年、株式会社東京こども教育センター(カタログハウス前身)編集部入社。広告室媒体担当広告本部副本部長を務める。'82年、株式会社情報処理技術者教育センター設立(現アイティック常務取締役)。'91年、セント・キャサリンズ・カレッジ神戸インスチチュート(オックスフォード大学)European Study Diploma取得。'96~'98年、社団法人日本通信販売協会理事(出向)。'98年、株式会社カタログハウス取締役情報システム部長。'02年、同社エコサービス室設立。

小松 研治
国立高岡短期大学産業造形学科教授
'80年、高澤学園いどーば美術学院デザイン・工芸科非常勤講師を務める。'86年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻講師。'90年、スウェーデン・カペラゴーデン美術工芸学校及びスтокホルムカール・マルムス滕美術工芸学校へ研修員として留学。'93年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻助教授に就任。'01年、「爪研ぎヤスリ」「仏壇のプロトタイプ」等の連携制作を手掛ける。'03年、現職に就任。

益田 文和
東京造形大学教授
株式会社オープンハウス代表取締役
'82~'88年、INDUSTRIAL DESIGN誌(JIDA発行)編集長を務める。'91年、株式会社オープンハウス設立。
'92年~新潟県央地域地場産業振興センターコーディネーターを務める。
'97年、通商産業省グッドデザイン賞を受賞。'98年、EcoDesign'99実行委員、エコデザイン研究所設立。
'00年、東京造形大学デザイン学科教授に就任。

大島 礼治
株式会社オーシマ・デザイン設計代表取締役
'74年、株式会社東芝デザイン部入社。'85年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科専任講師を務める。
'89年、株式会社オーシマ・デザイン設計設立。'91年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科助教授に就任。
'95年、ソシオシステム研究機構代表幹事。'96年、Istituto Europeo di Design (MILANO)客員教授に就任。

竹本 徳子
株式会社カタログハウス取締役エコサービス室長
'76年、株式会社東京こども教育センター(カタログハウス前身)編集部入社。広告室媒体担当広告本部副本部長を務める。'82年、株式会社情報処理技術者教育センター設立(現アイティック常務取締役)。'91年、セント・キャサリンズ・カレッジ神戸インスチチュート(オックスフォード大学)European Study Diploma取得。'96~'98年、社団法人日本通信販売協会理事(出向)。'98年、株式会社カタログハウス取締役情報システム部長。'02年、同社エコサービス室設立。

小松 研治
国立高岡短期大学産業造形学科教授
'80年、高澤学園いどーば美術学院デザイン・工芸科非常勤講師を務める。'86年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻講師。'90年、スウェーデン・カペラゴーデン美術工芸学校及びスтокホルムカール・マルムス滕美術工芸学校へ研修員として留学。'93年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻助教授に就任。'01年、「爪研ぎヤスリ」「仏壇のプロトタイプ」等の連携制作を手掛ける。'03年、現職に就任。

益田 文和
東京造形大学教授
株式会社オープンハウス代表取締役
'82~'88年、INDUSTRIAL DESIGN誌(JIDA発行)編集長を務める。'91年、株式会社オープンハウス設立。
'92年~新潟県央地域地場産業振興センターコーディネーターを務める。
'97年、通商産業省グッドデザイン賞を受賞。'98年、EcoDesign'99実行委員、エコデザイン研究所設立。
'00年、東京造形大学デザイン学科教授に就任。

大島 礼治
株式会社オーシマ・デザイン設計代表取締役
'74年、株式会社東芝デザイン部入社。'85年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科専任講師を務める。
'89年、株式会社オーシマ・デザイン設計設立。'91年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科助教授に就任。
'95年、ソシオシステム研究機構代表幹事。'96年、Istituto Europeo di Design (MILANO)客員教授に就任。

竹本 徳子
株式会社カタログハウス取締役エコサービス室長
'76年、株式会社東京こども教育センター(カタログハウス前身)編集部入社。広告室媒体担当広告本部副本部長を務める。'82年、株式会社情報処理技術者教育センター設立(現アイティック常務取締役)。'91年、セント・キャサリンズ・カレッジ神戸インスチチュート(オックスフォード大学)European Study Diploma取得。'96~'98年、社団法人日本通信販売協会理事(出向)。'98年、株式会社カタログハウス取締役情報システム部長。'02年、同社エコサービス室設立。

小松 研治
国立高岡短期大学産業造形学科教授
'80年、高澤学園いどーば美術学院デザイン・工芸科非常勤講師を務める。'86年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻講師。'90年、スウェーデン・カペラゴーデン美術工芸学校及びスтокホルムカール・マルムス滕美術工芸学校へ研修員として留学。'93年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻助教授に就任。'01年、「爪研ぎヤスリ」「仏壇のプロトタイプ」等の連携制作を手掛ける。'03年、現職に就任。

益田 文和
東京造形大学教授
株式会社オープンハウス代表取締役
'82~'88年、INDUSTRIAL DESIGN誌(JIDA発行)編集長を務める。'91年、株式会社オープンハウス設立。
'92年~新潟県央地域地場産業振興センターコーディネーターを務める。
'97年、通商産業省グッドデザイン賞を受賞。'98年、EcoDesign'99実行委員、エコデザイン研究所設立。
'00年、東京造形大学デザイン学科教授に就任。

大島 礼治
株式会社オーシマ・デザイン設計代表取締役
'74年、株式会社東芝デザイン部入社。'85年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科専任講師を務める。
'89年、株式会社オーシマ・デザイン設計設立。'91年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科助教授に就任。
'95年、ソシオシステム研究機構代表幹事。'96年、Istituto Europeo di Design (MILANO)客員教授に就任。

竹本 徳子
株式会社カタログハウス取締役エコサービス室長
'76年、株式会社東京こども教育センター(カタログハウス前身)編集部入社。広告室媒体担当広告本部副本部長を務める。'82年、株式会社情報処理技術者教育センター設立(現アイティック常務取締役)。'91年、セント・キャサリンズ・カレッジ神戸インスチチュート(オックスフォード大学)European Study Diploma取得。'96~'98年、社団法人日本通信販売協会理事(出向)。'98年、株式会社カタログハウス取締役情報システム部長。'02年、同社エコサービス室設立。

小松 研治
国立高岡短期大学産業造形学科教授
'80年、高澤学園いどーば美術学院デザイン・工芸科非常勤講師を務める。'86年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻講師。'90年、スウェーデン・カペラゴーデン美術工芸学校及びスтокホルムカール・マルムス滕美術工芸学校へ研修員として留学。'93年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻助教授に就任。'01年、「爪研ぎヤスリ」「仏壇のプロトタイプ」等の連携制作を手掛ける。'03年、現職に就任。

益田 文和
東京造形大学教授
株式会社オープンハウス代表取締役
'82~'88年、INDUSTRIAL DESIGN誌(JIDA発行)編集長を務める。'91年、株式会社オープンハウス設立。
'92年~新潟県央地域地場産業振興センターコーディネーターを務める。
'97年、通商産業省グッドデザイン賞を受賞。'98年、EcoDesign'99実行委員、エコデザイン研究所設立。
'00年、東京造形大学デザイン学科教授に就任。

大島 礼治
株式会社オーシマ・デザイン設計代表取締役
'74年、株式会社東芝デザイン部入社。'85年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科専任講師を務める。
'89年、株式会社オーシマ・デザイン設計設立。'91年、多摩美術大学美術学部立体デザイン科助教授に就任。
'95年、ソシオシステム研究機構代表幹事。'96年、Istituto Europeo di Design (MILANO)客員教授に就任。

竹本 徳子
株式会社カタログハウス取締役エコサービス室長
'76年、株式会社東京こども教育センター(カタログハウス前身)編集部入社。広告室媒体担当広告本部副本部長を務める。'82年、株式会社情報処理技術者教育センター設立(現アイティック常務取締役)。'91年、セント・キャサリンズ・カレッジ神戸インスチチュート(オックスフォード大学)European Study Diploma取得。'96~'98年、社団法人日本通信販売協会理事(出向)。'98年、株式会社カタログハウス取締役情報システム部長。'02年、同社エコサービス室設立。

小松 研治
国立高岡短期大学産業造形学科教授
'80年、高澤学園いどーば美術学院デザイン・工芸科非常勤講師を務める。'86年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻講師。'90年、スウェーデン・カペラゴーデン美術工芸学校及びスтокホルムカール・マルムス滕美術工芸学校へ研修員として留学。'93年、国立高岡短期大学産業工芸学科木材工芸専攻助教授に就任。'01年、「爪研ぎヤスリ」「仏壇のプロトタイプ」等の連携制作を手掛ける。'03年、現職に就任。

益田 文和
東京造形大学教授
株式会社オープンハウス代表取締役
'82~'88年、INDUSTRIAL DESIGN誌(JIDA発行)編集長を務める。'91年、株式会社オープンハウス設立。
'92年~新潟県央地域地場産業振興センターコーディネーターを務める。
'97年、通商産業省グッドデザイン賞を受賞。'98年、EcoDesign'99実行委員、エコデザイン研究所設立。
'00年、東京造形大学デザイン学科教授に就任。

大島 礼治
株式会社オーシマ・デザイン設計代表取締役
'74年、株式

でしょうね。それと、デザインしたものを持て手くプレゼンテーションする能力も必要です。そのためには、やはり社会の動向や消費者のニーズを把握しないわけなりません。

大島 プレゼンテーションが大切というのは、私も同感です。環境問題もまとめてお話をすると拒否反応があつたりするので、利益につながるストーリーを描きながらクライアントを導くようにしています。ただ、リサイクル関連の法整備が進んだことで、ついぶん理解されるようになりました。

竹本 商品があるだけでは、商売になります。いかにお客様とのコンセンサスと密接な関係を築いて育んでいくことが重要です。コンセプトはちょっぴり異端。凄く異端だと売られませんから。お客様が理解して共感していただける異端であることが大切です。

益田 ちょっとびり異端というのは的を射たコピーですね。でも、どうして亞垂というか二番手が登場してこないんでしょうか。

竹本 カタログは、毎号、同じ商品のコピーを書くんですが、共感して買っちゃったというところまで持つべきなきいけない。それがプロの仕事です。そのプロを簡単には育てられないでしょ。

益田 小松先生は教育に携わる立場からSDについていかがお考えでしょ。

小松 難しいですね。でも、こういう社会的なテーマには、もっと取り組まなければいけないと思っています。10年後も相変わらず技術教育に偏っていて困るんで。問題意識を養う教育にワーキングを移していくことが大切だと思いますね。

としたら、チープな素材を使った量産品にしかならない。つまり、どこに価値があるのかということを上手くプレゼンテーションすれば、新しい道が開けるのかなと感じています。SDがそのチャンスになるかも知れない。高岡の銅器も漆器も、末永く使っていける反大量消費の発想のモノだから。

竹本 「自分マーケティング」と当社の社長がいふんです。自分がいいと思うことは他人もいいと思うはずだと。それで商品よりも先に広告をつくるんです。つまり、売り方を先にシミュレートする。それもある意味でのデザインであり、モノづくりじゃないでしょうか。伝統産業やクラフトの世界でも可能だと思います。若い人の間で「これを持っているとワンランク上の私になる」とか、

大島 SDというのは難しい概念ですよね。言葉として聞くと何となくわかるが、じゅあ何をすればSDなのかというと難しい。

今の時点では正解だと思って、10年20年と経ったときもっと複雑な問題が発生しないとも限りませんから。ひとつつの答えとして出せないかもしませんね。

益田 難しいのは確かですが、SDとは共通認識のためのキーワードみたいなものと感じています。たとえばSDのテーマを言葉がありますよね。国際コンペのテーマを決めようとしたときに、SDのテーマをようという案が出たんですが、アメリカ人には通じない。私たちにとってSDのテーマといふというと、のんびりと充実した暮らしというイメージですが、アメリカ人には惨めで情けない生活というニュアンスで伝わるらしい。私たちのよく知っている国でも、言葉ひとつ概念ひとつが微妙に違つてきます。まして、世界にはたくさんの民族があって、彼らとのように地球の未来や人類の将来を考えればいいのでしょうか。そのときの、ひとつ基準がSDになればいいと思うんです。答えはまだないけど、地球規模でテーマの設定がようやくできたような気がします。

環境問題は、ひとつの国とか企業といった単位ではなく、一人ひとりが地球規模で共存していくかなければならない課題だ。人類全体が共通認識を持ちながら実践していくためには、やはり人と人の「ミニユニケーション」が大切になるはずだ。世界中の人々がSDという共通認識を持つていれば、きっと解

ワークショップ 「アルミ缶を溶かして鋳物の時計をつくる」

- 平成14年10月13日(日)
- 高岡市デザイン・工芸センター1階(造形・体験工房)
- 講師／榎間 秀人(金沢美術工芸大学非常勤講師)
郡 順二(金沢美術工芸大学非常勤助手)



同フェスタの期間中に実施されたワークショップには、フォーラム出席者のうち11名が生型铸造法による掛け時計の製作に挑戦した。参加者は、鋳物の素材として再利用するため生活中でゴミとなったアルミ缶を持参。原型と砂型の製作から鋳造・仕上げまでの工程を体験。ひとり20個集めたジュースやビールなどの350ml缶は、参加者それぞれの感性を映した鋳物時計の文字



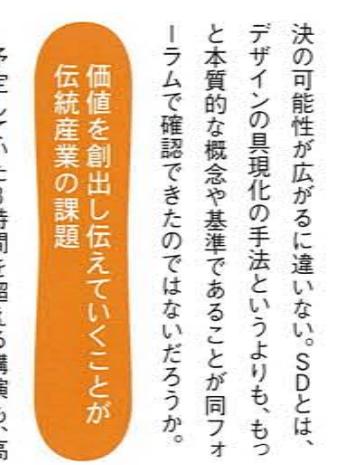
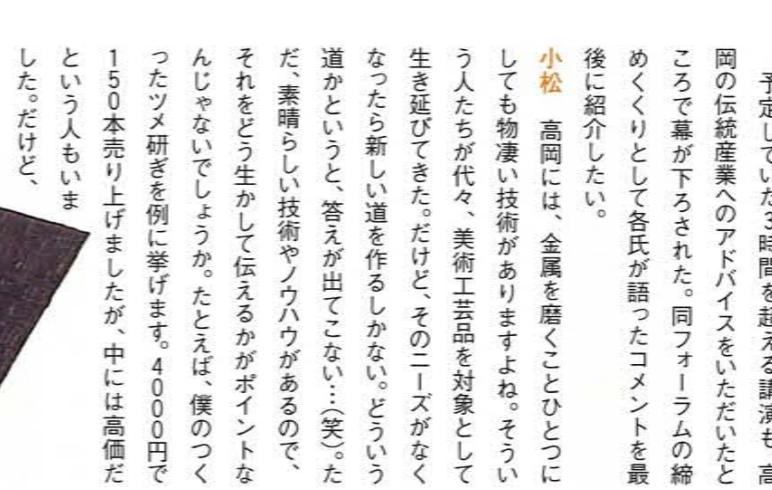
益田 ひとくちに結論が出ない漠然とした

SDは人類の 新しいプラットホーム



素敵なストーリーをつくる売り方ができるんじゃないでしょうか。

大島 ひとつ思うのは、既存の流通以外の方法論がないかということ。今までのやり方のほうが楽だし数も見込めるかもしれないが、それでは何の進展もない。流通を見直して自分たちで開拓するほうが絶対にいい。それと、伝統産業というのは、常に時代と向き合って生きてきたと思います。ですから、現代のテーマに取り組んで、他所が真似できないくらい徹底的に革新を図つていただきたい。



環境効率とか循環型社会というと、最先端のハイテクや大規模なシステムを連想された方も少なくないだろう。でも、今回のフォーラムで紹介された事例は、それぞれの立場からできることを実践したに過ぎない。SDとは、きっと誰もが暮らしの中で仕事の中で、自然に対峙していくべき身近なテーマに違いない。立場や規模こそ違つても、将来的にはすべての人人がSDに関わっていかなければならぬだろう。

価値を創出し伝えていくことが 伝統産業の課題

決の可能性が広がるに違いない。SDとは、デザインの具現化の手法というよりも、もつと本質的な概念や基準であることが同フォーラムで確認できたのではないだろうか。

予定していた3時間を超える講演も、岡の伝統産業へのアドバイスをいたいたところで幕が下ろされた。同フォーラムの締めくくりとして各氏が語ったコメントを最後に紹介したい。

小松 高岡には、金属を磨くことひとつにしても物凄い技術がありますよね。そういう人たちが代々、美術工芸品を対象として生き延びてきた。だけど、そのニーズがなくなつたら新しい道を作るしかない。どういう道かというと、答えが出てこない。(笑)ただ、素晴らしい技術やノウハウがあるので、それをどう生かして伝えるかがポイントなんじゃないでしょうか。たとえば、僕のつくったツメ研ぎを例に挙げます。4000円で150本売り上げました。中には高価だという人もいました。だけど、これを百円シヨップで売る

ひとくちに結論が出ない漠然とした

SDは、ひとくちに結論が出ない漠然とした

としたら、チープな素材を使った量産品にしかならない。つまり、どこに価値があるのかということを上手くプレゼンテーションすれば、新しい道が開けるのかなと感じています。SDがそのチャンスになるかも知れない。高岡の銅器も漆器も、末永く使っていける反大量消費の発想のモノだから。

竹本 「自分マーケティング」と当社の社長がいふんです。自分がいいと思うことは他人もいいと思うはずだと。それで商品よりも先に広告をつくるんです。つまり、売り方を先にシミュレートする。それもある意味でのデザインであり、モノづくりじゃないでしょうか。伝統産業やクラフトの世界でも可能だと思います。若い人の間で「これを持っているとワンランク上の私になる」とか、

デザインによる高付加価値や低価格の追求など、モノづくりの新しい課題が次々に提示されている。次代の製造業の力と深く関わった実践教育が求められるだろう。そんな中、国立高岡短期大学産業造形学科が地元企業との交流を活発化させている。

伝統産業の担い手との 共同勉強会

後継者育成に悩む高岡の銅器・漆器業界にとって、「金属工芸」「漆工芸」「木工芸」の3「ースを設置している。産業造形学科は人材の宝庫といえよう。一方で同学科からすると、地元に集積する製造現場は実践的なモノづくりに触れる格好の教育現場になるはずだ。お互いにブロスとなる面が多いものの、これまで両者の連携はそれほど密接ではなかった。同学科の三船温尚教授の呼び掛けで実施された高岡伝統産業青年会との共同勉強会は、高岡における新しい産学交流のきっかけになることが期待されている。



Key Persons ②

教育現場からの デザインデモンストレーション

産学交流から広がる新しい可能性。

般企業の鋳物工場で生型铸造法の体験製作を実施するに至った。参加したのは、学生9名と青年会8名の計17名。作品のフォルムとなる原型は、学生主導でデザインされた3種類のシンプルな小皿。生型铸造法はひとつ原型で同じ作品を加えることで違う装飾の作品が何種類も铸造できるという実験的な技法を採用した。

平成14年12月1日には、機能作の作業所で技術者の指導を受けながら作業が進められた。ブロの現場での製作は、ほとんどの学生たちにとって初めての体験になつたが、三船教授は「日々稼働している仕事場に触れる貴重な機会になりました。技術者の方々や青年会のメンバーも铸造できるという実験的な技法を探用した。



装飾を施した生型铸造法による作品。

完成した作品は、仕上げや着色を経て販売される。専門性の高い商品開発は、これまでの伝統的技術を活用して、新たな市場を開拓する一つの手段である。そこで、三船教授は「学生の方々がユニークでダイナミックな作品が多くなったように感じました。一方で青年会のメンバーは、コストや立場の違う交流会でしたが、お互いに学ぶ点があつたと思います」と話す。



9

前回の伝統のかほり展(平成15年1月22~27日)で展示販売された。学生が作品に自ら値段を付けることは、費用対効果のバランスを考える機会になったといえるだけ。同青年会の葛元昭副会長は「学生の方々がユニークでダイナミックな作品が多くなったように感じました。一方で青年会のメンバーは、コストや立場の違う交流会でしたが、お互いに学ぶ点があつたと思います」と話す。

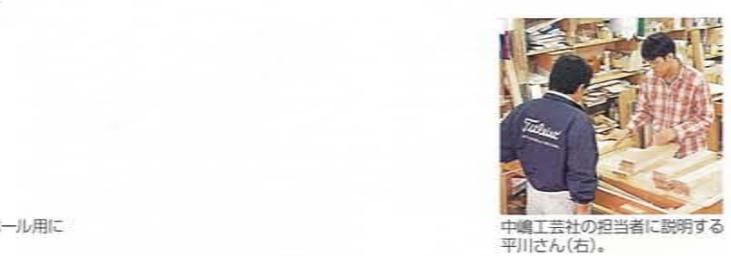


9

この記事は、主に高岡伝統産業青年会の活動について述べています。



呂(漆の乾燥棚)だ。同社が富山県産のスギ材による商品開発を依頼。小松教授のアドバイスもあって、平川さんが以前の実習で製作した漆風呂のリ・デザインに取り組んだ。高岡や輪島など漆器の文化教室など一般需要の開拓も視野に入れた。漆は湿度に反応して固まるため、低価格で新しいスタンダードとなる製品開発を目指して、プロの職人以外にも文化教室など一般需要の開拓も視野に入った。漆は湿度を保つことが漆風呂の条件となるが、試作品はスライド式の板に水を含ませるという従来にない構造で対応している。平川さんは「品質を下げるコストを下げる」とに苦労しました。販売を想定した製作



中嶋工芸社の担当者が説明する平川さん(右)。

一方、企業との共同開発によって商品化を間近に控えている作品がある。専攻科を平成14年に修了した平川大さんが、在学中から家具メーカーの中嶋工芸社(富山市)と商品化を進めている漆風呂の最終段階では、サンクスクリプション、デザイン、モックアップ製作、プレゼンテーション、製造を担当した。製作したのはテーブル1台と椅子4脚だが、プレゼン段階ではサンクスクリプション計画や配置計画の能力を養うためにも、学生作品の

販売も積極的に考えていく必要があるでしょう」と語る小松教授。これまでにも、学生と企業や職人を結び付けながら、数々の商品開発をプロデュースしている。最近の事例を2つ紹介してみよう。

専攻科では、学生たちに実用性やコスト意識させるため、受注生産スタイルによる製品づくりを展開している。これで、専攻科2年の望月勤さんは「テーブルと椅子は、それぞれ5タイプのデザインを提案しました。思ひもよらない案が選ばれたり、予測していかなかった指摘を受けたりして、自分たちは違う視点からの評価を伺えたことが勉強になりました」と語った。完成した製品は、平成15年2月に納入されて以来、同局エントランスホールに憩いのスペースを演出している。

一方、企業との共同開発によって商品化を間近に控えている作品がある。専攻科を平成14年に修了した平川大さんが、在学中から家具メーカーの中嶋工芸社(富山市)と商品化を進めている漆風呂の最終段階では、サンクスクリプション計画や配置計画の能力を養うためにも、学生作品の

販売も積極的に考えていく必要があるでしょう」と語る小松教授。これまでにも、学生と企業や職人を結び付けながら、数々の商品開発をプロデュースしている。最近の事例を2つ紹介してみよう。

専攻科では、学生たちに実用性やコスト意識させるため、受注生産スタイルによる製品づくりを展開している。これで、専攻科2年の望月勤さんは「テーブルと椅子は、それぞれ5タイプのデザインを提案しました。思ひもよらない案が選ばれたり、予測していかなかった指摘を受けたりして、自分たちは違う視点からの評価を伺えたことが勉強になりました」と語った。完成した製品は、平成15年2月に納入されて以来、同局エントランスホールに憩い

〈フォト景観部門〉最優秀賞／冬の高岡高校前



〈住宅部門〉優秀賞／満保邸



〈住宅部門〉優秀賞／北山邸



〈住宅部門〉優秀賞／橋田邸



〈建築物部門〉優秀賞／こうま調剤薬局



〈町並み景観部門〉優秀賞／鶴持寺周辺



〈フォト景観部門〉優秀賞／大手町踏地



〈フォト景観部門〉優秀賞／おとぎの森

第29回高岡巧美会展

高岡の伝統工芸の粹を集めた 銅器・漆器展を開催

問 高岡巧美会事務局（高岡市デザイン・工芸センター内） tel 0766-62-0520



高岡市伝統工芸産業技術保持者で構成される高岡巧美会（田中勇雄会長）の展覧会「伝統の技と美」が平成14年9月13日～16日まで開催された。会場となった高岡市美術館地下ギャラリーには会員26名が制作した銅器と漆器の花器や額、仏具や盆などの工芸作品

57点が展示された。高岡ならではの技法を駆使した伝統的な作品や、現代の生活空間を意識した作品がそろい、工芸の愛好家や市民らは高度な巧の技に見入っていた。

高岡銅器と高岡漆器は国の伝統的工芸品として指定を受けている。市ではこれら伝統工芸の技術・技法の保存と後継者育成を目的として、昭和42年から伝統工芸産業技術保持者の指定制度を設けている。高岡巧美会はこの指定を受けた技術者が集まって昭和46年に発足し、現在の会員は45人となっている。



平成14年度高岡都市美景観賞

新設2年目のフォト景観部門から、 初の最優秀賞が選定

問 高岡市都市整備部建築指導課 tel 0766-20-1429

優れた都市景観を創出している建造物などを表彰する「平成14年度高岡都市美景観賞」の審査が行われ、昨年9月、各賞が決定。今年度は、フォト景観部門から初の最優秀賞が選出された。同部門は美しい景観をファインダーで再発見してもらうことで、コンペの活性化を図ろうという狙いがあった。新設2年目ながら、こんなに早く同部門から最優秀賞が出るとは選考委員の誰も予想していなかったという。この快挙を成し遂げたのは長井夏子さん撮影の「冬の高岡高校前」。その絵画のような美しさについて、選考委員長の松永真氏は「雪景色から温もりは出にくいものだが、この写真からは幸せな人間の営みや志まで伝わってくるような気がした」とコメントしている。

審査は41人から応募のあった79件を対象に実施。優秀賞には、「住宅と車庫の一体化設計を上手く成功させた」満保邸（住宅部門）、「伝統ある土蔵造りの町に美しく調和した」こうま調剤薬局（建築物部門）などが選ばれた。

武田家アートとの出会い展

旧家で古式ゆかしき生け花の世界を展開

問 (財)高岡市民文化振興事業団 tel 0766-20-1450

歴史的建造物活用事業に取り組む(財)高岡市民文化振興事業団の主催によって、毎年実施している「武田家アートとの出会い展」。平成14年度は「花とうつわ展」と題し、重要文化財・武田家住宅の歴史ある空間、高岡の伝統産業である銅器、そしてそこに花を生けるというこだわりの企画で、10月12日～14日に開催（共催／池坊高岡支部、高岡銅器団地協同組合、高岡市デザイン・工芸センター）。会場には、高岡銅器の花器や薄端に和の心をしつらえた作品26点が並び、趣ある旧家の風格と古式ゆかしき生け花の気品が来場者を魅了した。



また会期中には、今回の生け花を担当した池坊高岡支部長の中川雅風氏を講師に迎えて交流セミナー「花と高岡銅器の出会い」が開催され、高岡銅器団地協同組合員がつくり手として、金属と生け花の歴史やしつらえを学んだ。同組合は「今後も展示会を通じて使い手との情報交換を積極的に行い、商品開発につなげていきたい」としている。

パブリックアートたかおか構想

中心市街地に、伝えの扉が開かれた

問 高岡市都市整備部都市計画課 tel 0766-20-1407

平成14年10月、御旅屋町ポケットパークにパブリックアート「伝えの扉」が完成した。これは高岡市が、パブリックアートたかおか構想を市民参加と協働で推進するため組織された「高岡市パブリックアートまちづくり市民会議」の提案を受け設置。高岡の「過去・現在・未来」をキーワードに、新たな時代を開拓する創造的なエネルギー発散の「場」づくりを計画した。

作品の大半は、高岡の伝統技術を生かしたブロンズ鋳造。とびらモニュメント（高さ3.6m）と鳥獣戯画動物像、市民から寄せられたメッセージを埋め込んだメッセージボードやメッセージサークルなどの作品群で構成されている。

同月5日に行われたオープニングセレモニーには、制作に参加した地元の学生をはじめ多くの市民が出席。メッセージサークルづくりを担当した平米小学校、高陵中学校、高岡工芸高校、高岡短期大学の生徒らがモニュメントを除幕した。同市民会議では、パブリックアート巡りに便利なアートマップも作成。市内の公民館や観光案内所などで配付している。

※市民会議の活動内容はホームページで紹介している。

<http://venus.takaoka-nu.ac.jp/pat/>



高岡市の創業者支援施設

賃貸型の支援施設の整備で、 新産業の創出を

問 高岡市商工労働部中小企業課 tel 0766-20-1285

高岡市では、「新高岡市産業振興プラン」に基づき、新成長産業や新事業の育成を進め、デザインと技術を生かした新たな産業分野の創出を目指している。その一環として、平成14年秋、相次いで2つの創業者支援施設を開設した。

〈高岡市SOHO事業者支援オフィス〉

平成14年11月8日にオープンしたのは、業務スペースを貸してIT関連企業の創業者を支援する「高岡市SOHO事業者支援オフィス」。高岡ステーションビル3階の一画220.8m²内に、業務室7室（14.6～20.3m²）と共同利用できる会議室2室、サロンスペース（事務局内）を整備した。同オフィスの魅力は、業務室の使用料金が月額3、4万円ほどと格安なうえ、光ファイバーはもとより、ADSL・Bフレッツが利用できること。10時から17時までは事務局に事務スタッフが常駐し、秘書的な業務もサポートしてくれる。

現在の入居企業は、IT機器関連の運用サポートおよびコンサルティング、ホームページの企画・制作の2社。同オフィスでは、専門家による経営や税務の相談に対応するなど、創業者の支援体制をさらに充実させながら、入居企業の増加に努めていく方針だ。



事務局



業務室 [使用料／月額30,660円～42,630円 (税込み)、使用期限／最長6年]



〈高岡市創業者支援センター〉

11月22日には、工場スペースを貸して製造業の創業者を支援する「高岡市創業者支援センター」が高岡市伏間江に誕生した。8,235m²の敷地内に、鉄骨平屋建て165m²の工場棟12棟と共同利用できる会議室や研修室、OAルーム、実験室を備えた鉄骨2階建て360m²の研修管理棟1棟がある。

12棟ある工場棟には、電飾看板設計製造、インナーウエア製作、成形品製作、木製建具製作など、多彩な顔触れが揃った。中でもユニークなのは、富山県立大学工学部の松本と恵助教授が研究協力するエクセル株。松本氏発明のプラズマ滅菌装置を同社が製造するアメリカ型ベンチャー企業だ。また、高岡市のデザインアドバイザー・佐藤康三氏（プロダクトデザイナー）が主宰するコーポーラーデザインスタジオの金属製品製造部門も進出。佐藤氏をとりまく若手デザイナーは多く、地場産業との新たな交流も期待されるところだ。

さらに特筆すべきは、入居企業に対し、技術や素材の研究、商品開発の支援を行っていること。コーディネーターは、同支援センターの所長である金子隆亮氏（前高岡市デザイン・工芸センター・デザインディレクター）が務め、研究・試験施設や大学、企業、デザイナーなどとの架け橋的な役割を担う。同支援センターでは今年度より、コーディネーターを中心に産学官一体となった支援システムを展開していく予定だ。



工場棟 [使用料／月額63,000円 (税込み)、使用期限／最長6年]

第2回高岡市企業交流会

高岡の産業関係者らが東京の企業と交流

問 高岡市商工労働部工業労政課 tel 0766・20・1293

高岡市では「新高岡市産業振興プラン」に基づき、産業資源整備の共通基盤となる情報交流の推進を図るため、平成13年度より「高岡市企業交流会」を開催し、業種や分野にとらわれない幅広い情報のネットワーク化やビジネスチャンスの構築を目指している。

2回目の今回は平成14年11月25日、東京(虎ノ門パストラル)において開催し、高岡と首都圏の企業間や産学官の交流を図った。参加者は、市内や県内に事業所を置く企業および高岡に縁のある首都圏の企業60社に高岡商工会議所、富山県立大学、高岡法科大学、富山県、高岡市などの関係者を合わせた約90名。

交流会では、高岡市の産業活性化への取り組みについての説明に続き、株式会社伊知郎人事部長が高岡オフィスパークに進出した「株式会社伊知郎」の事業紹介「高岡に生きる企業として…目指す道」を、また株式会社アドキャストの米田隆志代表取締役が同社の「ステンレス・チタン・ニッケルなどの精密鋳造品の製造」についてそれぞれ講演した。



講演終了後に開かれた交歓会では、参加者が自由に話し合い情報の交換が行われ、企業間におけるビジネスチャンスにつながる有意義なひとときとなった。

「Sho-me」
高い美意識に磨かれた
極上のオリジナル。
モダンな空気感を残しつどとか和風な「Sho-me」。
そこに真鍮が放つ独特のきらびやかで冷たいイメージ
と相まって、あたたかな光のハーモニーを奏でている
のだ。つまりは、高岡の銅器メーカー「能作」が今
開発した新ブランド。一年前に開いた初の東京展を機
に、デザインや素材にこだわった商品開発をいつそう
強化。新たな市場開拓に努めてきた。昨年秋には「もつ
と消費者に近づきたい」と、デザインショップ「サク
を開いた。通りすぐりの商品はどれもデザイン性の高
いものばかり。能作ブランドとともに、このお店の新
しい展開に注目だ。

「Sho-me」
照明／真鍮
小…W16.3×φ7.8cm、大…W26×φ7.8cm
価格 小16,000円 (PAT.P)
大20,000円
株式会社能作 tel 0766・63・5080

第2回高岡の伝統的工芸品展

東京池袋で高岡の銅器・漆器の魅力をアピール

問 高岡銅器伝統工芸士会 tel 0766・23・2061

東京・池袋の全国伝統的工芸品センターにて「高岡の伝統的工芸品展」が、平成14年9月26日から約2週間開催された。高岡市内の伝統工芸士や技術保持者が制作・出展した作品展で、今回が2度目。高岡銅器と高岡漆器それぞれの伝統工芸士会、高岡巧美会の会員が中心となって進められた。

会場には、長い歴史を持つ銅器、漆器の産地ならではの技術が生きた花器や盆、茶道具、装飾品など約100点を展示。併せて、工芸品づくりの実演会やミニ講座、アンケート調査を実施するなど、作り手と来場者との交流を深める企画をふんだんに盛り込んだ。この背景を高岡銅器伝統工芸士会の鳥田宗吾会長は「高岡の伝統産業の新しい道を拓くためには、現代の暮らしに根ざしたモノづくりを目指すことが大切。そのきっかけになればと、一番の消費地である東京での作品展を始めた。アンケートでも、伝統の技と美を高く評価する一方で、それらを現代にマッチさせる努力の必要性を指摘する声が多くあった。この活動を継続しながら消費者の要望を積極的に収集し、今後の商品開発に生かしたい」と語る。

平成15年11月には、高岡で「伝統的工芸品月間国民会議全国大会〔財〕伝統的工芸品産業振興協会」と「全国伝統工芸士大会〔日本伝統工芸士会・〔財〕伝統的工芸品産業振興協会〕」が開催される予定。高岡の伝統産業の新しい力が、全国規模の大舞台でどのように生かされるかに注目したい。



工芸都市高岡2002クラフト展

グランプリの該当作品はなし。 次回に期待

問 高岡商工会議所内クラフトコンペ事務局 tel 0766・23・5000

「工芸都市高岡2002クラフト展」(平成14年10月24日～29日)が、大和高岡店に768点の入選作品を集めて開催された。16回目を迎えた今回は、グランプリ作品の選出が見送られるという異例の結果となった。これについて、プロダクトデザイナーの川上元美審査委員長は「グランプリはコンペの方向性を決定づけるもの。今回は、審査員が一致してグランプリに推す傑作がなかったため、無理に選出しなかった」としている。グランプリ作品が選出されなかったことに伴い、金賞・銀賞を従来の各1点から各3点に増設。今回の最高賞となった金賞には、それが独自の世界を展開している「まめうつわ」「動物の箱」「漆塗耳搔き」が甲乙つけがたいとして同時選出された。

市場のデフレ傾向や産業の空洞化など、モノづくりを取り巻く環境は依然として厳しい。くしくも混迷の時代を反映するような今回の結果は、一方でクラフトの方向性を示す新しい提案への期待ともいえよう。テーマ「新しいクラフトを求めて」を高い次元で具現化する傑作が、次回のコンペから誕生することを待ちたい。



《金賞》まめうつわ



《金賞》漆塗耳搔き



《金賞》動物の箱

第28回デザインセミナー

【平成14年9月11日開催】主催／高岡クラフトデザインネットワーク

「ロサンゼルスでの五十嵐威暢・最近の仕事と生活」

彫刻家 五十嵐 威暢 (Igarashi Takenobu)



1944年北海道滝川市生まれ。68年多摩美術大学卒業。
'69年カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 大学院修士課程修了 (MA in Art)。'75年同校専任講師 (~76)。'79年千葉大学工学部デザイン科講師 (~83)。
'85年国際グラフィックデザイナー連盟 (SISY) 理事 (~93)。(社)日本グラフィックデザイナー協会 (JAGDA) 理事 (~96)。'89年カリフォルニア大学ロサンゼルス校デザイン学部客員教授 (~91)。多摩美術大学美術学部二部デザイン科主任教授 (~93)。

グラフィック・プロダクトのデザイナーとしてヒット商品やデザイン賞受賞作品を数多く生み出す(世界各国の美術館永久収蔵品も多数)。94年以降は彫刻家に転身し、東京、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコ、メキシコ、ドイツ、ベルギーなどで個展を開催。並行して多摩美術大学客員教授、金沢工業大学顧問、インターロクス・クリエイティブセンターチーフアドバイザーを務めている。

1994年に私が彫刻を始めた時、まず最初にしたのは「条件や予見を整理してプランする」というデザイナー時代の方法論を捨てることでした。ということはプランをしない。だから私は、彫刻ではスケッチや図面を描きません。作っていくうちに形ができるまで、いいと思った時が終わり。思ったようにできないということがなく、ストレスもありません。このような方法をとりながら、金属、石、そして木の仕事に移っていました。

木の仕事を始めるきっかけとなったのは、東京都営地下鉄大江戸線のアートワークコンペです。高さ2.5m幅10mもの広い場所に設置するレリーフということで、石での製作は無理。信楽で釉薬を使わずに焼くテラコッタで作ることにしました。これが実に評判が良くコンペでも勝った。

しかし、それ以上に良かったのがプレゼンテーション用の木の模型でした。コンペで負けた会社のスタッフがすごく気に入って、大きな木の仕事を依頼してきたのです。仕事というのは、思いも寄らない展開で舞い込むものですね。

デザインから離れてみて、逆にデザインのことが良く分かるようになりました。一つは、今のデザインが産業に偏りすぎているということ。デザインとは本来、生活を豊かにし、豊かな生活が人を育て町を育てる、というふうにもっと広かったです。一方で、今の日本のデザイン界に欠けている「デザイン史の教育と知識」「本当の評論家」の必要性を感じています。世界の歴史を知らずに新しいデザインを生み出すのは至難の業。辛口の評論家が大勢で議論を展開する状況じゃないとデザインは歪んでいます。そこで私は、製紙会社から創業記念事業の相談を受けた際に2つの提案をしました。一つはニューヨークのギャラリーのポスターコレクションを購入し、多摩美術大学の美術館に寄付する。もう一つは、評論家を育てるための計画を始めることです。それが「デザイン史研究論文募集」で、すでに1回目が終了し、新しい論文が発表されています。

彫刻家になって丸8年が経ち、1年ほど前からアメリカの仕事も徐々に増えています。現在、サンフランシスコでは病院を、ロサンゼルスでは橋を3つ作っています。同時に、つい最近、私の故郷である北海道滝川市で芸術公園都市構想と現代美術館構想という2つの仕事を始めました。これは駅前商店街の活性化だけに終始してきた古い再開発プランはやめにして、町の人たち共通のテーマであるアートやデザインをメディアにしようという、新しい意義をもつ計画。そのために、駅前に大公園を作り文化施設を点在させてイベントを催す。市民の要望があれば滝川に1、2ヵ月滞在してお手伝いするつもりです。そういうことも始めているので、今後は日本に来る機会が増えそうです。アーティストは暇かなと思っていましたが、デザイナー時代より忙しいかもしれません。



SA-KU
DESIGN SHOP
SA-KU [サク]

高岡市熊野町1-28 tel 0766・21・7007

11:00～19:00 国火曜日

北欧デザインから高岡の新ブランド
HIHや自社オリジナルまで個性あふれる雑貨たち。

2
蝶型で小物をつくる
市民工芸実習 [4回コース]

蝶型鋳造で、自分だけのオリジナルづくりに挑戦。

職人さんの指導で初めての手づくり

高岡市デザイン・工芸センターでは、市民がものづくりに親しむ機会として金工・漆工の工芸体験実習を実施。暮らしの中で使えるものを中心に、初めてでも楽しくできる制作課題を多彩に企画している。その中で今回は、平成14年11月に行われた「蝶型で小物をつくる」の実習の様子をリポートする。



鋳造形(原型)

原型は、鮮やかに手びねりしながら創意のままに形づくっていく。
作品の良し悪しは「自分で決まる」というてもいいほど重要な作業。



高岡銅器の伝統的な鋳造方法には、蝶型、双型、焼型などがある。なかでも今回挑戦した蝶型は、最も精度の高い一品製作の技法だ。蝶でつくった原型を粘土分を含む砂で包んだ後、焼いて蝶を溶かし出し、その隙間に金属を流し込む。蝶によってかたどられた作者のイメージは、原型そのままのしなやかさを保ちながら金属に生まれ変わるのだ。熟練の職人ともなるとレースのように繊細な透き模様や髪の一本まで表現できるという。

この実習の魅力は、初心者でもプロの道具を使って本格的な技術が学べるところ。今回の受講者も、

蝶型とは何ぞやをよく知らずに参加した。それでも皆、なんとか思い通りのデザインを形にしていったのは、先生方の的確なアドバイスがあったからこそ。「あまり手を加えずに指導する。そうすると達成感があるし愛着もわく。私はお手伝いをするだけ」とは大森先生の言葉。なるほど、完成した時の皆の満足げな笑顔の理由は、どうやらそこにあるようだ。



鋳造(ロストワックス鋳造法)

蝶型の鋳造作業は特殊な設備や技術を要するため、その道のプロ「中村製作所」に委託。



仕上げ

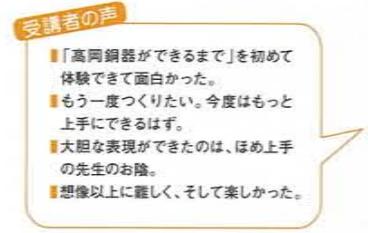
仕上げの目安は、自らの手で確かめるのが一番。手触りが良ければ、硬い金属でも自然とやさしくあたたかみのある作品に仕上がる。



着色

高岡銅器の伝承技法「古代色」に挑戦。

金属をさまざまな方法で「腐食」させることで、作風に合わせた好みの色に変化させた。



[平成15年度工芸体験実習開催予定]

高岡市デザイン・工芸センターでは、平成15年度に下記の工芸体験実習を予定しています。諸事情により日程や内容が変更する場合もありますので、ホームページもしくはお電話にてご確認ください。

■親子体験実習1回コース 親子2名1組【子どもは小学3年生以上】

日程	内容
平成15年7月13日(日)	アルミ缶を溶かしてルームフレートをつくる
〃 8月24日(日)	銀粘土でキーホルダーをつくる
〃 7月27日(日)	錫鉢で石のペーパーウェイトをつくる
〃 8月10日(日)	塗りでミニバネルをつくる

■市民体験実習1回コース 15歳以上一般

日程	内容
平成15年9月21日(日)	鉄物で時計をつくる
〃 11月16日(日)	銀粘土でアクリルをつくる
平成16年2月27日(日)	錫鉢でフォトスタンドをつくる
平成15年5月18日(日)	錫鉢でコースターをつくる
〃 11月28日(日)	漆絵でランチョンマット、枕、箸をつくる
平成16年2月15日(日)	漆絵で雛人形をつくる

■市民工芸実習4回コース 15歳以上一般

日程	内容
平成15年7月4日からの毎週金曜日	蝶型で小物をつくる
平成15年8月1日(日)	銀粘土で器をつくる
平成15年6月6日からの毎週金曜日	影刺繍で丸皿をつくる
平成15年5月18日(日)	漆絵でランチョンマット、枕、箸をつくる
〃 12月7日(日)	漆絵で羽子板をつくる
平成16年2月15日(日)	漆絵で雛人形をつくる

*『鍍金で器をつくる』の実習は3回コース(最終週のみ日曜日実施)。

今回の講師

着色

杉森幸雄
1948年高岡市生まれ。'89年高岡市伝統工芸産業優秀技術者表彰。



仕上げ

京田政春
1943年高岡市生まれ。'62年父政太郎氏に師事。'69年独立自営。'76年高岡伝統工芸産業優秀技術者表彰。



鋳造形

大森孝志
1952年高岡市生まれ。'71年須賀松園氏(国指定無形文化財保持者)に師事。'82年高岡伝統工芸品加工技術振興賞受賞。'83年高岡伝統工芸士に認定。'99年高岡市伝統工芸産業優秀技術者表彰。





高岡発「素材と技術」レポート

モノづくりの町・高岡を下から支えているのが新しい素材や技術の開発。起業家精神に満ちあふれた技術者たちが日夜研究にいそしみ新素材・新技術を生むべく努力している。

特種金属の精密鋳造も可能な
出荷の技術を保有

田隆志社長。「金型の開発費を減する方法を確立すれば、特種金属を鋳造する市場はもっと伸びるでしょう」と見通しを語る。



医療用具メーカーの求めに応じてつくった人工骨の荒地材で、コバルト、クロム、モリブデンの合金。医療用具としての認可は取得しており、形状を整えてから膝などの関節に使われる。



特種金属の鋳造見本として同社がつくったサンプル。手前左より粉末成型のモデル、アルミ、ステンレス。後列左よりコバルト、ニッケル、チタンと並ぶ。

量産品の精密鋳造品であつても、試験・試作の段階でいきなり金型の製作に入るのにはリスクが伴うが、こうした方法を活用すれば、金型製作の費用や日数などのリスクも解消。写真で紹介するコバルト合金の人工骨用の部品も、試作品で医療用具の認可を受けてから金型が開発された。

チタンなどの精密鋳造は特種な技術で、その技術を保有する企業は、日本では同社を含めて3社、世界的に見ても10社ほどしかない。また、1個あるいは数個単位で鋳造品をつくる企業も数は少ない。マグネシウム合金を家电製品のボディーに使うケースも現われはじめているが、試作品の製作や特種金属の鋳造分野での同社の可能性は大きいといえるだろう。

金型をつぐらすに錆錠呴をつぐる

ひとつ新たなノウハウを蓄積しつつある。それは、1品もしくは数個単位で精密鋳造品をつくること。3次元のCADデータをもとに、ワックスの粉末を積層せながらレーザーで固めてモルタルをつくり、そのモルタルをもとにして鋳造品をつくる。いわゆる粉末成型法による鋳造である。

チタンなどの精密铸造は特種な技術で、その技术を保有する企业は、日本では同社を含め3社、世界的に見ても10社ほどしかない。また、1個あるいは数個単位で铸造品をつくる企业も数は少ない。マグネシウム合金を家电製品のボディーに使うケースも現われはじめているが、試作品の製作や特種金属の铸造分野での同社の可能性は大きいといえるだろう。

の問題を解決し、コストのものはメコシトをやだらか。

- (3) アーク炉や電子ビーム炉で溶解が困難な純クロムやクロム合金の溶解が可能。

(4) チタン、チタン合金の溶解が可能であり、ジルコニア鋳型や黒鉛鋳型では生成する鋳型反応層が、石灰鋳型ではほとんど生じない。

(5) 溶湯の流動性がよく、薄肉鋳物の製造に適する。

要は、特種金属やその合金であっても、不純物の少ない、精密な鋳造ができる、ところである。こうした技術は同社と東北大學の金属材料研究所との共同研究によって生まれたものだが、その工業化にいわ早く取り組んだ結果、先に紹介したチタンヘッドのコルフクラブができ、また化学プラント用のチタン製バルブなどがつくれられるようになつた。

同社は高岡市に本社を構え、もともとは銅合金の大型仏具や美術銅器を鋳造する企業で、扱う金属の幅を広げることで独特のノウハウを蓄積し、特種金属の精密鋳造の分野では地歩を固めつつあるといえよう。

卷之三

Design Craft Center
事業案内



産地技術や素材生産力を

高岡市では、市デザイン・工芸センターと市内の事業者が合同で、高岡式ものづくり、新クラフト産業の育成を展開している。平成13年度は、市内13の事業者が4つのグループに分かれ、それぞれの課題の下で商品開発を行った。統べて、14年度はその具体化とともに、「素材産地」としての高岡、をPRするための素材見本を制作し、高岡発の新ブランド「エリミ」(ハイビル)の



素材見本の制作や商品開発、またそれらを紹介する展示会の打ち合わせには「デザインプロデューサー」の立川裕太氏、プロタクトデザイナーの安次富隆氏がアドバイザーとして参加。その成果を東京・新宿のリビングデザインセンターOZONE（オゾン）において披露（9月26日～10月8日）した。

展示会のテーマは「T-H-I-Nのカタチ—トコミングデザイン+サーフエフェクション」。400年の歴史をもつて鋼器・漆器の技術を現代的にアレンジしたトレーラー・小箱・猪口（ちょこ）をはじめ、照明器具やインテリア用品など約350点を展示。いずれの作品も、産地の技術や素材の持ち味を表現するためにシンプルなデザインが採用されていた。

何よりも注目を集めたのは、さまざまな表面処理が施された150四方の、130枚のマテリアルフレートである。各種の着色技法によってさまざまな表情を見せる青銅や真鍮のフレーム、

使用できないか、また、キッチンメーカーからも高級キッチンの扉にこの素材を使いたいといった問い合わせがあった。また見本で展示していた照明器具、猪口・デカントなどのエレガントブランドの新商品を販売ルートに乗せたいというセレクトショップ、どこの間(26頁参照)をモデルハウスのインテリアアイテムとして採用したいというハウスメーカーも現われ、期待通りの展開になりつつある。

次年度以降は、本格的な商品開発とマテリアルフレームのさらなる訴求が課題になるが、産地の技術や素材生産力を遺憾なく紹介できた今回の展示会は、エリートの船出としては明るい材料になった、といえるだね。

ちなみに、今回の会場デザインは、インテリアデザイナーの小泉誠氏が担当。発泡スチロールを用いたシンプルなデザインが、展示品をいっそう引き立たせていた。

使用できないか、また、キッチンメイカーからも高級キッチンの扉にこの素材を使いたいといった問い合わせがあった。また見本で展示了していた照明器具、猪口・デカンタなどのエミグランードの新商品を販売ルートに乗せたいというセレクトショップ、どこの間(26頁参照)をモデルハウスのインテリアアイテムとして採用したいというハウスメーカーも現われ、期待通りの展開になりつつある。

次年度以降は、本格的な商品開発とマテリアルフレートのさらなる訴求が課題になるが、産地の技術や素材生産力を遺憾なく紹介できた今回の展示会は、エフエムの船出としては明るい材料になったといえるだろ。

ちなみに、今回の会場デザインは、インテリアデザイナーの小泉誠氏が担当。発泡スチロールを用いたシンプルなデザインが、展示品をいっそう引き立たせていた。

また漆やウレタンを用いた変わり塗りが施されたフレート。産地としては素材の表層(サーフィン)そのものをデザイニし、その素材をインテリアアイテムとして生活シーンの中で生かす方法を建築デザイナーやプロダクトデザイナーに聞いかせるような展示であったが、これだけ多品種のマテリアルフレートが一度に紹介されることは今までに例がないだけに好評を博すとともに耳目を集めた。

A photograph of a modern interior space featuring large, white, modular concrete structures. The structures have various built-in elements like shelves, doors, and windows. Several people are walking through the space, which has a warm, ambient light.



choice.

2002 TAKAOKA CRAFTS EXHIBITION 審査員が買ったクラフト

工芸都市高岡2002クラフトコンペティション審査員「山田節子」

2002

「ものに呼ばれる現象」と私は呼んでいるが、エネルギーを発するものには、自然に吸い寄せられるような気がしている。

何時の間にか、ものを選び、売場を創る、展覧会企画すると云つた仕事が多くなった。随分ものを見、集め、買つてきましたが、新鮮なものとの出会いは、嬉しいものである。

クラフト製品は、少量反復生産が基本であるから、工業製品の均質性とは違い、ひとつひとつに人の手技と心が感じられ、そのことが魅力である。とりわけ、クラフトコンペに出される一品は、それぞれの人の、気の入ったものであるからなお更である。

審査が終わった後は、気分も解放され、私の生活や好みを主題とした至福な時間である。2002年のコンペは激しく自己主張をする作品が無かつた分、楽しめるものは多かった。その中で、「家に持ち帰つて」と、私を呼び止めた作品が二つ。

一つは「貴方どうしたの、お洒落しちゃって」と思わず話しかけたくなる、「動物の箱」と名づけられた、木製のユニークな動物の蓋物。じっくり眺め、八種の中から二人連れ帰ることにした。すでに、我家の一角を覗々と占拠し、なかなか景色を作り出している。

もう一つは、木の下地に和紙を貼り、漆を施した堅牢で凛とした「コーヒートレイ」。正月の客にも、不意に現れた客達にも大もて、和洋を問わず様になります。重い大きな器は後片付けが重荷になつたこの頃、一枚重ねて厚さ8cm、重さ1kg、この軽さ、この使い映え、驚異的な嬉しさです。

使われてこそ、ものは喜び、ほめられて又、次のもの創りへと繋がる。クラフトコンペは、創り手と使い手、ものと人の豊かさを繋ぎ続ける、出会いの場に思います。



山田 節子
Yamada Setsuko
「コーディネーター」

株 TWIN(トゥイン)代表
株 東京生活研究所ディレクター
地場産業や固有性のあるライフスタイルをテーマに様々な企画催事・ものづくりに取り組む一方、百貨店「松屋」のシンクタンクとして、生活プロア、食品プロアのディレクションを通し、長年提案を続けています。工芸都市高岡クラフトコンペティションでは、100年から審査員を務めています。

ムーヴィン 通販俱楽部

2002クラフト展作品誌上通販

和風モダンの暮らしを飾るクラフト

和風モダンのライフスタイルが流行っています。時代が変わっても、きっと日本人は伝統的な和の風情や意匠を手放したくないのでしょう。そんな情緒的なシーンを描くクラフトと暮らしてみませんか。入賞・入選作品から、現代の生活空間に溶け込む和風テイストの4点をピックアップしました。

掲載の作品は、インターネットからご注文いただけます。

※作品は(小)を使用しています。

メタル
クラフト賞



「Milky Way(ミルキーウェイ)」

石川恵美子(富山県)

●器 ●銀 ●小…φ11×H1.5cm、中…φ15.5×H1.2cm、
大…W18.5×H0.8×D16cm
価格 小3枚組 11,400円
中2枚組 11,000円
大2枚組 12,600円
大中小各1枚セット 15,600円

冷たいはずの金属なのにどこか温もりを感じる模様。和食にも洋食にも合うシルバーテクスチャーは、テーブルの洒落たアクセントになりそう。



「波紋」

南佳織(富山県)

●皿 ●ガラス ●φ15×H3cm
価格 3枚組 10,500円

水を連想させる涼しげなフォルムと質感。食卓を楽しく美しく飾りながら、料理の美味しさを増してくれそうな器です。



「溜塗猪口・溜塗カップ」

黒田昌吾(富山県)

●そば猪口・小鉢・漆 ●猪口…φ7.8×H7cm、カップ…φ8×H15cm
価格 猪口2個組 14,000円
カップ1個 12,000円

表面を粗いタッちで自由に仕上げた独特の風合い。用途は違っても、どちらも保温効果に優れた漆器なので、そばつゆもビールも冷たさが持続します。

*下記URLにリンクされている申し込みフォームをご注文ください。*通販有効期限=平成15年9月末日

<http://www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/craft/>

【注意事項】●商品価格には、消費税が含まれていません。●1万円以上の商品は送料無料。●商品到着後9日以上経過したものや、お客様のもので破損・汚損・傷が生じたものは、返品をお受けできません。●電話・ファックスでのご注文は受け付けていません。●商品は手作りのため、形状・色・寸法などに多少の差が出る場合があります。●商品によっては、ご注文から1~2ヶ月ほどお待ちいただくことがあります。また、数に限りがありますので、万一品切れの際はご容赦ください。●お支払い方法・送料等の詳細は、上記URLに明記されています。ご注文の際には、必ずご確認ください。



【※2】御印祭(ごいんまつり)…前田利長に手厚く保護されていた鋳物師たちが利長の御印文書を崇め、毎年6月19・20日に報恩感謝の気持ちを示す祭り。祭りで歌われる弥栄節(やえふ)は、鋳物師たちが、たら(大型のふいご)を踏むときに歌った歌。たたらを踏む作業を再現した「弥栄節町流し」では、男性は作業服の法被をまとい踏む時に体を支えた息枕を片手に、女性は和服姿で手ぬぐいを持って「エンヤシャ、ヤッシャイ」と歌いながら石畳の通りを練り歩く。

もので、平成4年に概ねの事業が完了している。また、この事業は昭和61年に建設省(当時)の「第一回手づくり郷土賞」を受賞している。

金屋町7町の求心力となる 公民館の完成

景観形成に尽力されてきた「金屋町まちづくり推進協議会」会長の新保昭一さんに

当時の町づくりについてお話をうかがった。

「昭和54年に国の『横田地区居住環境整備事業計画調査』が行われ、歴史的な

景観が失われつつある金屋町通りの保全

整備を」という打診がありました。実はそ

れ以前から自治会長をしていましたが、

この話がきた訳です」と当時を振り返る。

また時を同じくして公民館建設の気運も

高まっていたという。「金屋町は7町あり

ますが、一堂に会する公民館がなく各町単

位でお寺を借りて会合をしていました。

つた。

住民の結束力も強まり、先の調査を受けた整備についても意識の統一が図りやすくなつたといえよう。どんな町にするかを7町の代表者や通りの住民らと協議を重ねた末、鋳物発祥の地の歴史と伝統をアピールすること。特に町家や町並みについては国的重要伝統的建造物群保存地区など、法律に基づいた規制のある保存



町家の室内(自然光の入る天井) 千本格子(さまのこ)

不都合なことも多く、1日も早く公民館が必要だと痛感していました」と新保さん。

元銀行を購入し、

余曲折を経て

改修・開設したのが昭和55年。ここは同時に鋳物史料館として貴重な展示品が収められていた。

勿論、金屋町最大の祭り御印祭では宿として機能する。

「公民館ができる前は、通りに面する3

町が毎年順番に御印祭のお世話をしていますが、宿になる個人宅の負担が大きかったんです。今では7町が毎年順番に当番をして町全体で祭りに関わるようになりました。公民館の完成を機に祭りが盛大になりましたね」(新保さん)といふように、公民館は金屋町全体の求心力になつた。

金屋町で最初にお土産店を開いた「鋳物工房・利三郎」の神利良子さんは、「私自身

問題もいくつか浮上した。

景観が整い観光客も徐々に増えてきたが、

問題もいくつか浮上した。

卸問屋などはあるものの、観光客がお

土産を買つことはおろか、休憩する施設

すらないこと。また一方では、金屋緑地

公園が、心無い人によって落書きや「ゴミ

が散乱して汚さが目立ってきたこと。こ

の状態に憂いをもつた住民が行動を起こした。

金屋町で最初にお土産店を開いた「鋳物

工房・利三郎」の神利良子さんは、「私自身

ではなく、住民生活を考慮した整備とい

う方向性が打ち出され計画に反映された。

問題解決に向けて動きだす、

住民の取り組み

ではなく、住民生活を考慮した整備とい

う方向性が打ち出され計画に反映された。

一方が鐵維などを扱う商業の町、そして金

屋町は千本格子(地元では「さまで」と呼ぶ)の町家が軒を連ねる。1階

の庇は板葺で、2階は梁のまわりを白漆喰

とした様式が連続する。

金屋町通りは電柱がなく、道路は石畳

となつていて。さらに細部に目をやると

石畳には銅片がランダムに配され、雪国

ならではの消雪装置も組み込まれている。

いわば古い町並みに現代の新しい要素が

融合した景観といえる。このほか金屋緑

地公園や駐車場、鳳鳴橋なども整備され、

これらは昭和58年度から県や市で進められた「金屋町まちづくり整備事業」による

土蔵のある山町筋とはいわば双子のよう

な町である。どちらも加賀藩2代藩主前

田利長が慶長14年(1609)の開町時に城

下の商工業の繁栄を図る産業振興策として

一方が鐵維などを扱う商業の町、そして金

屋町は千本格子(地元では「さまで」と呼ぶ)の町家が軒を連ねる。1階

の庇は板葺で、2階は梁のまわりを白漆喰

とした様式が連続する。

金屋町通りは電柱がなく、道路は石畠

となつていて。さらに細部に目をやると

石畠には銅片がランダムに配され、雪国

ならではの消雪装置も組み込まれている。

いわば古い町並みに現代の新しい要素が

融合した景観といえる。このほか金屋緑

地公園や駐車場、鳳鳴橋なども整備され、

これらは昭和58年度から県や市で進められた「金屋町まちづくり整備事業」による

土蔵のある山町筋とはいわば双子のよう

な町である。どちらも加賀藩2代藩主前

田利長が慶長14年(1609)の開町時に城

下の商工業の繁栄を図る産業振興策として

一方が鐵維などを扱う商業の町、そして金

屋町は千本格子(地元では「さまで」と呼ぶ)の町家が軒を連ねる。1階

の庇は板葺で、2階は梁のまわりを白漆喰

とした様式が連続する。

金屋町通りは電柱がなく、道路は石畠

となつていて。さらに細部に目をやると

石畠には銅片がランダムに配され、雪国

ならではの消雪装置も組み込まれている。

いわば古い町並みに現代の新しい要素が

融合した景観といえる。このほか金屋緑

地公園や駐車場、鳳鳴橋なども整備され、

これらは昭和58年度から県や市で進められた「金屋町まちづくり整備事業」による

土蔵のある山町筋とはいわば双子のよう

な町である。どちらも加賀藩2代藩主前

田利長が慶長14年(1609)の開町時に城

下の商工業の繁栄を図る産業振興策として

一方が鐵維などを扱う商業の町、そして金

屋町は千本格子(地元では「さまで」と呼ぶ)の町家が軒を連ねる。1階

の庇は板葺で、2階は梁のまわりを白漆喰

とした様式が連続する。

金屋町通りは電柱がなく、道路は石畠

となつていて。さらに細部に目をやると

石畠には銅片がランダムに配され、雪国

ならではの消雪装置も組み込まれている。

いわば古い町並みに現代の新しい要素が

融合した景観といえる。このほか金屋緑

地公園や駐車場、鳳鳴橋なども整備され、

これらは昭和58年度から県や市で進められた「金屋町まちづくり整備事業」による

土蔵のある山町筋とはいわば双子のよう

な町である。どちらも加賀藩2代藩主前

田利長が慶長14年(1609)の開町時に城

下の商工業の繁栄を図る産業振興策として

一方が鐵維などを扱う商業の町、そして金

屋町は千本格子(地元では「さまで」と呼ぶ)の町家が軒を連ねる。1階

の庇は板葺で、2階は梁のまわりを白漆喰

とした様式が連続する。

金屋町通りは電柱がなく、道路は石畠

となつていて。さらに細部に目をやると

石畠には銅片がランダムに配され、雪国

ならではの消雪装置も組み込まれている。

いわば古い町並みに現代の新しい要素が

融合した景観といえる。このほか金屋緑

地公園や駐車場、鳳鳴橋なども整備され、

これらは昭和58年度から県や市で進められた「金屋町まちづくり整備事業」による

土蔵のある山町筋とはいわば双子のよう

な町である。どちらも加賀藩2代藩主前

田利長が慶長14年(1609)の開町時に城

下の商工業の繁栄を図る産業振興策として

一方が鐵維などを扱う商業の町、そして金

屋町は千本格子(地元では「さまで」と呼ぶ)の町家が軒を連ねる。1階

の庇は板葺で、2階は梁のまわりを白漆喰

とした様式が連続する。

金屋町通りは電柱がなく、道路は石畠

となつていて。さらに細部に目をやると

石畠には銅片がランダムに配され、雪国

ならではの消雪装置も組み込まれている。

いわば古い町並みに現代の新しい要素が

融合した景観といえる。このほか金屋緑

地公園や駐車場、鳳鳴橋なども整備され、

これらは昭和58年度から県や市で進められた「金屋町まちづくり整備事業」による

土蔵のある山町筋とはいわば双子のよう

な町である。どちらも加賀藩2代藩主前

田利長が慶長14年(1609)の開町時に城

下の商工業の繁栄を図る産業振興策として

一方が鐵維などを扱う商業の町、そして金

屋町は千本格子(地元では「さまで」と呼ぶ)の町家が軒を連ねる。1階

の庇は板葺で、2階は梁のまわりを白漆喰

とした様式が連続する。

金屋町通りは電柱がなく、道路は石畠

<p

画展などを開けている。

利三郎の出店がひとつ目の引き金となつて、その後アンティック店や美術銅器のミニ展示場が相次ぎオープン。既存の卸問屋も観光客が利用しやすい店内に改装するなど観光客への対応を進めはじめた。

一方、先の公園問題が契機となつて住民の新たな動きも生まれる。「ある人が見かねて毎日のように公園を掃除をしていました。でも一人では限界がありますし、その姿を見て私も何とかしなければと思い、町内の女性に呼びかけました。当初は公園を掃除する目的でボランティアグループを平成9年に結成しました」と「町なみを考える・藤グループ」代表の般若陽子さんは発足の経緯を話す。



錦物工房・利三郎

その後、グループでは金屋町の観光ガイドやゲスト会を開催するなど活動範囲は広がっています。

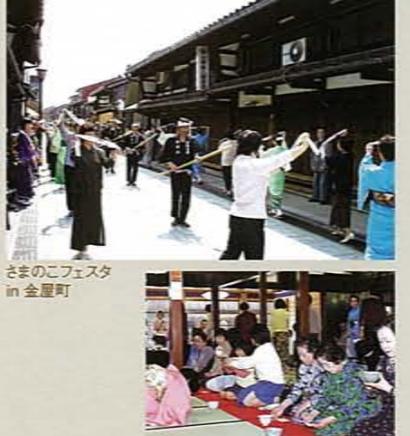
景観整備の後は主だった動きもなかつたが、近隣の町では活性化に向けた活動が始まっていた。先の藤グループでは金

文化を発信する、さまのこフェスタ

景観整備の後は主だった動きもなかつたが、近隣の町では活性化に向けた活動が始まっていた。先の藤グループでは金

屋町らしい町おこしができないものか検討を重ね、格子戸の町家と石畳通りの町並みを活用して作品の展示や室内が見学できるイベント案を考えた。この企画を各町の自治会長や婦人会に持ちかけたところ賛同を得る。そして地元の関係者や高岡商工会議所の協力のもと「格子戸（さまのこ）フェスタ in 金屋町」を平成13年5月に初めて開催し、今年は3回目を迎える。

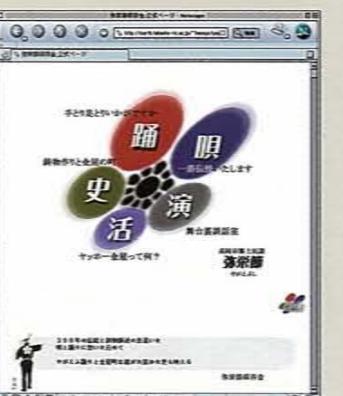
金屋町まちづくり推進協議会の専務理事を務めフェエスタの実行委員長でもある般若邦太郎さんは「文化は守ることも必要ですが、外に向けて発信することも大切だと思います。このフェエスタでは金屋町



保存・再生に向けての課題

町並みを保全していくには、「伝統的な町家を生活の場として維持しつつ「干本格子」ということもあって、国の法律に基づいた規制のある保存を目指してはいませんでした。市からも何度も重要な伝統的建造物群保存地区にという意向がありましたが時期尚早と言つてきました。しかし、そろそろこれらを視野に入れて動いていくべき時期なのかもしません」と新保さんは、次の時代に向けた金屋町の方針を示唆している。

さまでのこフェスタなどは、そういう気運の現れなのかもしれない。



町の歴史や祭りなどを紹介している
Matsuri no Yatai 保存会ホームページ
<http://earth.takaoka-nc.ac.jp/kanaya/yagaefu/>

の歴史や伝統文化などを伝え、その魅力を理解していただけます。一方では、住民が他の家の内部を初めて見学して、その素晴らしさに驚き改めて自分の町の価値を感じます。また、これまでのフェエスタは内部だけで活動してきましたが、これからは町の出身作家を紹介したり外部から町に詳しい著名人を招いてアドバイスをいただきことも検討しています」と、今後のフェエスタを通じた町おこしの方向性を示された。

「景観整備の時点では、金屋町は生活の場といふこともあって、国の法律に基づいた規制のある保存を目指してはいませんでした。市からも何度も重要な伝統的建造物群保存地区にという意向がありましたが時期尚早と言つてきました。しかし、そろそろこれらを視野に入れて動いていくべき時期なのかもしません」と新保さんは、次の時代に向けた金屋町の方針を示唆している。さまでのこを保存しようとする住民主導のフェエスタなどは、そういう気運の現れなのかもしれない。

かかる、数十年後を推測すると景観が徐々に失われるという危惧もはらんでいる。「景観整備の時点では、金屋町は生活の場といふこともあって、国の法律に基づいた規制のある保存を目指してはいませんでした。市からも何度も重要な伝統的建造物群保存地区にという意向がありましたが時期尚早と言つてきました。しかし、そろそろこれらを視野に入れて動いていくべき時期なのかもしません」と新保さんは、次の時代に向けた金屋町の方針を示唆している。さまでのこを保存しようとする住民主導のフェエスタなどは、そういう気運の現れなのかもしれない。

SA・KU (デザイン・HIHI)

どこ間／漆、カシュー、鉄物／大…W15×H30×D17cm、小…W15×H20×D17cm
価格 大…18,000円～25,000円
小…16,000円

SA・KU tel 0766-21-7007

ひとの間

和・洋といった従来の様式にとらわれないモダンなフォルムが魅力的。しつらえられた空間そのものの提案で、新しいスタイルやシーンの創出を予感させる。漆の手仕事なうでは、現代の床の間代わりとして、お花やキャンドル、オブジェなど、いろんな飾り物に似合います。

株式会社タカタレムノス

design-array

▲“FLAT”／ペーパートレイ／ブライウッド/W34×H27×D10.5cm
価格 1set 2,000円
3set 5,000円

▶“STOCK”／ティッシュケース／ブライウッド/W28×H15×D13cm
価格 3,800円

問 株式会社タカタレムノス
tel 0766-24-5731

デザインクロックのタカタレムノス初の生活雑貨ブランド。シンプルで知的なデザインでありながら、実用性や機能性も十分に考えられている。組立式ペーパートレイは、スタッキングができるのでセットがお得。ティッシュケースは「コンパクトサイズのティッシュシユを2箱収納できる。

三協アルミニウム工業株式会社

アクセントシリーズ

アクリルミニウム／W15×H90.6cm、
ブチFix窓…W30×H29.7cm、まるFix窓…φ70cm
価格 スリムFix窓 17,000円、ブチFix窓 15,500円
まるFix窓 69,900円

ブチFix窓 まるFix窓

スリムFix窓

自分らしさにこだわる若い世代の住まいを演出する三協アルミニの新提案「アクセントコロナ」。おしゃれなリズムの効果といやすらぐ光の効果で空間を個性的にセンスアップ、ワンポイントにしたり組み合わせたり…アクセサリーを選び或は住まいのおしゃれを楽しんで。

三協アルミニウム工業株式会社
tel 0766-20-2251